



幕末風説書留  
嘉永七年一至十二月

服部文庫  
イ17  
2189  
2



117 特  
2189  
2

嘉永七年寅月



此頃里私来近海傳言乘込八百人大名發藏借 甲曹旗本受質  
瑳刀鎗出表合刃難切骨注文具足增素肌是居寢未鋤師  
儲偏是異私御蔭様人集夜放大鉄炮偽賣板行蒸氣私  
細川早堀評判宜東子通人仰天悲俄習鉄砲亦刃術是懸盜  
賊似索繩

右品川假賣女也 由

○ 於短目とゆへに其ぎと長くをき

の長多し

まゝくしよのきは代々國うし浦管をさうて至多私わいふ  
形のうらゝぬあの人たすふねふんいふひる。まゝく  
右國好しゆもやぞ障のあし作らるにありうをさうて

嘉永七年正月

(5)





願汝勿放火炮衆人雷同被為笑

ロフハニヤル

唾咀呈進或有公昏回音代収可也倘或欽  
差大人等坐船一并同行可也右此照會各  
大臣等并候

崇安。不一甲寅年正月二十三日

炮厦且坐駕船進

右者彼理船來之上中法物人之選又云  
しん



三月十九日夜

~~...~~

一 十四日夕、素因船を般入津、金津、磯河

一 十六日夕、般入津

一 蒸氣ノシカト下三般外、三般ノシカト下三般外、  
船と別、蒸氣ノシカト下三般外、三般ノシカト下三般外、  
と云ふ

一 正使、又彼船中、三午クイナ船、去リ

一 十吉、五川、重信、銀丸、山、流、月、平、山、健、治、命、夫、  
船、江、江、海、浦、筑、港、と、海、島、と、一、と、云、夫、人、名、  
因、家、何、事、要、と、云、海、島、村、と、都、と、云、と、云、夫、人、名、  
何、事、と、云、

江戸の商賈は皆金匱を以て富むるを以て自給自足を以て

商人の情状を以て問ふ

一 北条の國を以て藩の藩と稱するは其の藩に在りて

海に依りて其の藩の藩と稱するは其の藩に在りて

了りて其の藩の藩と稱するは其の藩に在りて

と云ふ

一 林道は其の藩の藩と稱するは其の藩に在りて

と云ふ

一 交易の國は其の藩の藩と稱するは其の藩に在りて

後より其の藩の藩と稱するは其の藩に在りて

自給自足の藩と稱するは其の藩に在りて

一 林道は其の藩の藩と稱するは其の藩に在りて

何卒後備の藩と稱するは其の藩に在りて

後備の藩と稱するは其の藩に在りて

其の藩と稱するは其の藩に在りて

其の藩と稱するは其の藩に在りて

一 林道は其の藩の藩と稱するは其の藩に在りて

其の藩と稱するは其の藩に在りて

其の藩と稱するは其の藩に在りて

其の藩と稱するは其の藩に在りて





為珍之物と稱し其高厚を傳へて其厚を記す  
區惟珍之を所賦何れは貴乎是の北後浦  
此等の如く稱するは其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す

一 龜甲片 其厚何程廣く其厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す

海に生るし其厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す

一 先方 其厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す

一 其厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す  
其の厚を記す其の厚を記す其の厚を記す



一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

一 賈子之學之口如子止之紅信也... 德中德魏... 其口勝也... 此乃其口之... 亦其口之... 亦其口之...

其後、是より、信濃人と丁字の通り、其は、  
此の地を、  
と云ふ。

- 一、昔年、  
一、  
一、  
一、

立石の

- 一、  
一、  
一、  
一、

半々女孫はさす中... 孫は孫は及は海客の...  
接しと昔... 夫人... 孫... 孫...  
孫... 孫... 孫... 孫... 孫...  
孫... 孫... 孫... 孫... 孫...  
孫... 孫... 孫... 孫... 孫...  
孫... 孫... 孫... 孫... 孫...  
孫... 孫... 孫... 孫... 孫...  
孫... 孫... 孫... 孫... 孫...  
孫... 孫... 孫... 孫... 孫...  
孫... 孫... 孫... 孫... 孫...

孫の及の孫也

- 一 孫の及の孫也
- 一 孫の及の孫也
- 一 孫の及の孫也
- 一 孫の及の孫也

由りおる由り... 孫の及の孫也

孫の及の孫也... 孫の及の孫也

一 能くもなれば、後右杖をぬりて、今右海をぬりて  
ぬれぬる潮の浅き處、一とせしむる、一とせしむる、  
今ぬれたるに、此の酒をききしとせしむる、  
一とせしむる、  
一 石に、此の酒、  
二 此の酒、  
とす人、  
とせしむる、  
て候し、  
て、  
用とす。

一 考へ、病を治す、

一 考へ、病を治す、

一 考へ、病を治す、

二月十日 夫人上陸 目撃 概略



一 四半時以ハツテイフモ 船中 船中 船中  
上陸より出迎へられたる者等と 指す 船中 船中 船中

一 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中

一 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中

一 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中 船中

天の毛長し  
如く毛長し  
瘦る方へ  
耳の山を  
項を  
今も  
存する

帽子 下  
下  
下  
下  
下  
下  
下  
下  
下  
下

服部文庫  
117



△右肩より  
△左肩より  
△後より

人々の視線を作らぬよう  
目線を下に向け  
首を動かさず  
視線を動かす  
視線を下に向け  
視線を動かす  
視線を下に向け  
視線を動かす  
視線を下に向け  
視線を動かす

上へ向かうと視線が白痴らしく  
視線を下に向け  
視線を動かす  
視線を下に向け  
視線を動かす  
視線を下に向け  
視線を動かす  
視線を下に向け  
視線を動かす  
視線を下に向け  
視線を動かす

△筆葉の分  
△右側  
△左側

右鏡葉柄  
左鏡葉柄  
筆葉の分  
右側  
左側

筆葉の分  
右側  
左側  
筆葉の分  
右側  
左側  
筆葉の分  
右側  
左側





相残活しと初と後とを 無幅を寸分秘を言ふ 無幅を寸分秘を言ふ

又幅 幅を寸分秘を言ふ 又幅を寸分秘を言ふ

口多部の上

幅縁と云

幅又衣の替

幅縁と云

幅縁と云

幅縁と云

幅縁と云

幅縁と云

幅縁と云

幅縁と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

又又と云 幅縁と云 又又と云

一 美袋之注 手大

此とて  
うらやま  
いふま  
又て  
てつて  
くし  
又て  
又て  
又て  
又て  
又て

仙術と視其物と乞ふるものと若情を人無んとては

時と力同様に其れを其れと擲置て如き事ありて其

地の所接して其れを其れと云はれり人外に小便令止人將古付

鏡平のト口と云ふと四方之人合て四五十年六人船遊り

者水史と云ふと凡そ人社と云ふは其れを其れと賜ふ

賜ふ者  
賜ふ者  
賜ふ者  
賜ふ者  
賜ふ者

出役と云ふ者 後 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

一 七時おのりルタート但の末に居る樂部を其れと賜ふ

先其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

て走り向りソルタートに在るト口と云ふは其れを其れと賜ふ

夫と  
夫と  
夫と  
夫と  
夫と

十時より其れと云ふ人其れを其れと賜ふ者 賜ふ者

て走り向りソルタートに在るト口と云ふは其れを其れと賜ふ

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

此の時其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者

其れを其れと賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者 賜ふ者









この海をわたりて相人など走らせし。農具と紙を片手にし。

土手と紙を片手にし。脇腹にあり、脇腹と二三印設けし。刀印も

体は――茶を飲まると吃たアブボスト以下、肝を刺し、

甜ふきふき、あつめ、あつめ、あつめ、治天、あつめ、あつめ

て、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

こゝろをこゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ

代、入、り、後、ゆ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ

こゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ、こゝろ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ、あつめ

ト物物すに魂神と依りて因縁種々致さるるに因縁  
の是と成すべくもなき其夫曰くとこり似て行きて一回歩  
こ止て息を留りて夫は履と穿りて履を脱ぎて厚き袴を  
丸く穿ぬる幸と祈りて拒絶し給ふる所を甚りし  
日とる履と穿りて歩きては依りて人を見大失笑  
夫又曰くと置人俸ありて又酒飲して是と踏止りて  
其日四八人夫と一回は遊ばしと歩きて其時を待  
て障得とて六朝と依りてんて大失笑する如き  
物なれば丁重に教われば又曰く申すは女は  
去りて夫と暮して決りてくふらん人し物物す

之  
一 年終よりす。アウオストウリヤスアホハハ海の中  
て内物と依りて一毎に海の中を物々物々  
飯の快く食ふ事なれば一毎に海の中を物々物々  
其し者厚と依りて夫は厚と穿りて丸飯と穿りて其  
一丸飯と食ふ事なれば一毎に海の中を物々物々  
此一物飯と云ふ哉て少く先其母とて食ふ事  
其母と依りて食ふ事なれば一毎に海の中を物々物々  
の心と依りて食ふ事なれば一毎に海の中を物々物々  
一 関光名出下りて物物すはありて物物すはありて









株梁千石

後方せんで、鉄板は木板の板より、なほ四方路の此是、

人 鉄板より、 縦と土柱を以て土を

低を穿らし、板は木を指す、 土を穿る如く、板は木を指す、 板を

軸にして車の行てる、板は木を指す、 地柱を、

十五間をとり、板は木を指す、 地柱を、板は木を指す、 板を

テレカラフの線と、板は木を指す、 板を、板は木を指す、 板を

又、板は木を指す、 又、板は木を指す、 又、板は木を指す、 又、

又、板は木を指す、 又、板は木を指す、 又、板は木を指す、 又、

の用は、板は木を指す、 鉄線と、板は木を指す、 鉄線を、

板は、板は木を指す、 板は、板は木を指す、 板は、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

と、板は木を指す、 と、板は木を指す、 と、板は木を指す、

地圖をやり又内側の銅の包むは是の船首尾にうろこの鉄を伴  
設けり其の詳は三四尺大の船造り集揚の舟の造り  
船造り尾尾舟の全舟者係し楫を幾れ船を楫と地並き  
下へ船を繋ぎ出し其の中楫を抜てもおし船は  
大小の舟を二三台舟の造り

一 束ねる唐いし袋と作らる

一 植とく物と船のおき道は物を隔り長くと洋に鉄の  
舟守のちのちを板に船卯大の穴と船板を穿らるとして  
其古と人又四間を許す輪を造る車造り造り  
外周に牙廣さす洋厚さす下固鉄と施して大牙の如くは  
輪に九本斜め上りて敷き船の牙と直き柄鉄物と施

施して固しは壁は我兩年の紙と物と造り如く左右二  
ノ里糸と立一方糸とせん糸と施し其お面ノ小車輪の大足  
かり物と三層は固くその大輪と旋轉する内ノ里木の内固  
の小車輪造り其お面ノ内固は彼大古と施し其  
又用や物とく物に旋轉し其お面ノ内固は彼大古と施し其  
くく見とく物に旋轉し其お面ノ内固は彼大古と施し其  
くく見とく物に旋轉し其お面ノ内固は彼大古と施し其  
くく見とく物に旋轉し其お面ノ内固は彼大古と施し其

鉄物とく物に旋轉し其お面ノ内固は彼大古と施し其  
夫板出し約し曲りと造りて又カセり

一 物とく物とく物に旋轉し其お面ノ内固は彼大古と施し其  
し五すく物とく物に旋轉し其お面ノ内固は彼大古と施し其  
海島を造りて板を固く其お面ノ内固は彼大古と施し其  
中央に鉄の物と造りて敷き船の牙と直き柄鉄物と施







色又路のめし一、片方又より片方、又長し中社とく厚の  
 うる知し素人、以て使ひて、素人の生地、あり本と可く、  
 及んぬ、素人のめしと、以て代り、不利なり、  
 ぢり、まひ、ん、れ、う、さ、物、さ、又、一、の、し、ら、を、以、て、切、見、  
 下、れ、片、方、の、四、角、板、條、と、切、し、め、る、板、切、り、あ、ら、た、  
 け、の、れ、ん、悦、く、切、り、代、り、を、さ、う、さ、  
 一、路、の、外、名、の、厚、を、手、許、板、と、板、を、使、う、本、理、に、許、す、板、物、を、  
 て、と、上、の、板、の、極、と、板、を、使、う、さ、  
 包、も、又、<sup>長、三、股、と、二、股、</sup>板、の、極、と、包、を、使、う、さ、  
 一、物、は、人、許、長、素、人、許、の、板、を、板、の、極、と、さ、う、さ、  
 は、ま、う、一、板、し、三、角、の、板、と、し、る、板、を、是、に、<sup>長、三、股、</sup>板、の、極、と、  
 上、り、さ、う、さ、  
~~長、三、股、と、二、股、~~

一、つ、長、鏡、先、三、股、と、長、と、設、け、て、長、を、上、長、三、股、  
 方、を、人、社、と、板、と、板、と、板、と、板、と、板、と、板、と、板、と、  
 出、し、<sup>長、三、股、と、二、股、</sup>板、の、極、と、板、の、極、と、板、の、極、と、  
 五、角、を、去、り、部、向、倒、し、板、を、板、の、極、と、板、の、極、と、  
 板、の、極、と、板、の、極、と、板、の、極、と、板、の、極、と、  
 一、つ、ま、し、め、板、の、極、と、板、の、極、と、板、の、極、と、  
 板、と、出、し、て、板、を、板、の、極、と、板、の、極、と、  
 方、い、つ、許、し、板、と、挿、し、<sup>板、の、極、と、板、の、極、と、</sup>板、の、極、と、  
 板、と、挿、し、<sup>長、三、股、と、二、股、</sup>板、の、極、と、板、の、極、と、  
 と、さ、う、物、と、戒、め、て、<sup>長、三、股、と、二、股、</sup>板、の、極、と、  
 眼鏡、<sup>長、三、股、と、二、股、</sup>

出 いさふ所 さいた さいた 差も目と睜一 張して立す一瞬間  
 出 ちりきり さいた さいた さらして書を扱す 此道逆しを強ひけり  
ふりかへてみたりと云ふ 花鳥よく被挿する板と板と 板下  
 板とく さいた さいた さいた 其のあつりしる内宮 物持表 さいた  
 中平 さいた さいた さいた 波りり さいた さいた さいた さいた さいた さいた  
 壬徒と云ふをさる人物 さいた さいた さいた さいた さいた さいた  
 と類 さいた さいた さいた さいた さいた さいた  
 甲 さいた さいた さいた さいた さいた さいた  
 以後 さいた さいた さいた さいた さいた さいた  
 衣箱 さいた さいた さいた さいた さいた さいた  
 衣箱の箱 さいた さいた さいた さいた さいた さいた  
 ア さいた さいた さいた さいた さいた さいた

子教元一ニ  
 ⑥

大学頭殿

一 五名書札 一 末

一 大出陣札 一 片

一 書札 一 片

一 具細工 一 名

未  
 各上落書

五彩箋 一箱

濃刺紙 一箱

新書折方紙

取水螺 三枚  
 珊瑚藻 一枚  
 銀亮貝 一枚

一 墨前所批款

代匣一副  
砚匣一副

各種文具件 四套

對子各款

一 紺紙自中 十

西筆十枝

一 白紙中 十

口尺

一 去後帶 十

撥筆

一 硯 十

舖板

各色紙

一 紅線子 一

紅綾 一段

一 白日 一

白綾 一段

一 裸人形 一

人形畫圖

一 屏風 一

八折屏風 一

一 休書 一

竹造佩苑 一

一 竹油 一

鐵竹各器

一 白紙 一

紙各款

一 長尺 一

柳條編紗三條

一 舊物 一

舊物十款

一 銀尾魚 二十個  
 二 玉尾魚 二十個  
 三 玉尾魚 二十個  
 四 玉尾魚 二十個  
 五 玉尾魚 二十個  
 六 玉尾魚 二十個  
 七 玉尾魚 二十個  
 八 玉尾魚 二十個  
 九 玉尾魚 二十個  
 十 玉尾魚 二十個

二月十日

四 車馬子  
 四 厚皮子  
 四 厚皮子

四 厚皮子  
 四 厚皮子

四 厚皮子  
 四 厚皮子

二十七日

四 厚皮子

四 厚皮子

二十七日

四 厚皮子

四 厚皮子

コあり

四味子

吸物

四味子

四味子

コあり

四味子

コあり

四味子

コあり

四味子

吸物

四味子

コあり

四味子

吸物

コあり

コあり

四味子

川中

川中  
川中  
川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中

川中



四 活字のつくりかた  
海老のつくりかた

及 抄 類 聚

四 活字のつくりかた  
海老のつくりかた

四 生 活 記

三 活 字 活 字 活 字

十 活 字

一 活 字 活 字 活 字  
活 字 活 字 活 字  
活 字 活 字 活 字

活 字 活 字 活 字

一 活 字 活 字 活 字

四 活 字 活 字

一 活 字 活 字 活 字  
活 字 活 字 活 字  
活 字 活 字 活 字

十 活 字 活 字 活 字  
活 字 活 字 活 字  
活 字 活 字 活 字

くまの物 物々々々  
くまの物 物々々々

一 坪

坪 坪 坪 坪  
坪 坪 坪 坪

坪

一 平

平 平 平 平  
平 平 平 平

平 平 平 平  
平 平 平 平

一 差

差 差 差 差  
差 差 差 差

物 物 物 物  
物 物 物 物

わ ー ー ー

三 三 三 三

東 イーシノ  
北 ナウス  
海 シイ  
夜 ナイ  
凡 ウン  
毒 ウマ  
地 カカ  
女 フ  
女 陰マ

西 ウシツ  
晝 テイ  
子 子  
日 ラ  
井 ハ  
米 ラ  
水 ワ  
果 根  
船 ヤ

南 シヤウス  
唐 シヤ  
天 ヘ  
祖 全  
奉 五  
西 ハ  
船 ヤ  
山 ラ

カサカニ店

カサホリツ

月ノ行ニ

男ノカニ

烟草ノカ

人ノ

人各

アラシヨ  
コヨウシ  
スセーリ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ

ヒラシ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ

アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ

アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ

アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ  
アヲシエ

鼻  
コウリス

舌  
クニ

歯  
テリス

鼻  
ヘー

頬  
ヘリス

耳  
ノヤ

鼻  
シキ

手  
アリス

衣  
キヤグ

眼  
ノヤ

脚  
ノヤ

衣  
カスボリ

肩  
ノヤ

ヒ  
ノヤ

衣  
ワケテ

代  
ノヤ

椿  
ノヤ

衣  
スヤシ

水  
ノヤ

衣  
シシイ

一物 七十五日  
 一物 五尺  
 一物 三俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵

一物 五尺  
 一物 十尺  
 一物 三俵  
 一物 三俵  
 一物 三俵  
 一物 三俵  
 一物 三俵  
 一物 三俵  
 一物 三俵

一物 七十八  
 一物 七俵  
 一物 三俵

一物 三俵  
 一物 七俵  
 一物 三俵

一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵

一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵  
 一物 只俵

一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣

ト甲  
サラシホ  
ホリハモ、後下

一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣
一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣	一 鷓鴣

古の鳥、是時、鳥書、年、由、子、野、鳥、書、也、  
 子、野、鳥、書、也、  
 代、野、鳥、書、也、  
 高、三、日、十、七、日

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

安政元年十二月廿三日 宣旨

夫外寇事情固所深被惱震襟也况於緇素何有差異頃年墨夷再乘入相摸海岸今秋魯夷渡来畿内近海國家急務只在海防因欲以諸國寺院之梵鐘鑄造大砲小銃置海國樞要之地備不虞速令諸國寺院各存時勢并寺之外除古来名器及報時之鐘其他悉可

鑄換大砲為

皇國擁護之器及邊海無事之時復又宜銷兵  
器以為鯨鐘不可存異議者之旨被

仰出假事

藏人〇〇〇奉



